

「中・高校生と乳幼児との保育交流」実践レポート

チーム名【 向東地区家庭教育支援チーム“親だから” 】

日時	1回目：H29.9.25（月）の2，3時間目 2回目：H29.10.23（月）の2，3時間目	中・高校生	尾道市立向東中学校 3年生 2クラス（35人，36人）
会場	尾道市立向東中学校 体育館	乳幼児	1回目：18組の親子（0歳～3歳） 2回目：17組の親子（0歳～3歳）
活動の位置付け	家庭科の授業 ・ 職業体験 ・ 保育ボランティア ・ その他 （総合的な学習の時間）		

ふれ合い体験のねらい・内容

ねらい

中学生全員が、乳幼児の親子とふれ合う体験をすることによって、これから親になること、子供や育児について、自ら考えて成長する力を養ってほしい。また、同じ町に住む中学生と親子が顔見知りになることで、お互いの声かけが生まれ、自分も地域の一員であるという実感を持ってほしい。

内容

町内の子育てサロンを利用する親子に中学校へ来てもらい、クラスごとに1時間ずつのふれ合い体験を2回実施。中学生はこの体験のために「手作りおもちゃ」を用意して迎えた。平成23年度から毎年実施し、今年度で7回目。

- ・あいさつ（中学生，親子代表）
- ・アイスブレイク（手遊び歌）
- ・自己紹介（グループごと）
- ・中学生の手作りおもちゃを使ってのあそびやふれあい遊び。親子との交流。
- ・感想の発表とあいさつ（中学生，親子代表）

ふれ合い体験の様子（写真等）



学校と乳幼児の親子とのコーディネートの方法

小学校5・6年生で行う「生と性のお話」をうけて、実際に子育て中の親や小さい子供とふれあうことによって、自分が親になった時を想像したり、親への感謝の気持ちを持つことにつながったりする体験となるように中学校へ実施を家庭教育支援チームから働きかけた。

（働きかけから，5年目で実施となった）

参加者（中・高校生，教員，子ども，保護者）の感想

- ・改めて，小さい子ってやっぱりかわいいなと思いました。（男子生徒）
- ・小さい子が泣き出したときに，泣き止まずのが大変でした。（女子生徒）
- ・僕には下の兄弟がいないのでこれまで子供を抱っこしたことがありませんでした。今日初めて赤ちゃんを抱っこしてみて，温度とか重さを体で体験できて，本当にいい経験ができたと思いました。（男子生徒）
- ・楽しかったし，お母さんにとっても参考になるお話が聞けて良かったです。（女子生徒）
- ・上の子も含めて今回で4，5回目になりますが，毎回来て思うことが，この子が10年後に皆さんみたいに優しいお兄さんやお姉さん達になってくれたらいいなということと，うちの子もこのような機会に恵まれたらいいだろうなということです。（母親）
- ・今日はありがとうございました。身近に中学生がいないので，中学生ってこんな感じなんだと私が新鮮でした。おもちゃも買ったものばかりなので，こんな風に作ってあげたらいいのかなと思いました。（母親）

チームにとっての成果と課題

この交流が継続して行っており，生徒たちも3年生になってこれを体験することを心待ちにしている。子供がとても苦手だった生徒が，交流した子供の力によって，最終的には子供と打ち解け，笑顔で一緒に遊べるようになった例もある。先生方も生徒の学校で見せない表情を見られて，喜んでおられる。また，生徒にとっても親との関係を考える機会となっており，このまま継続していきたい。